

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

教育目標

大阪大学および人間科学研究科の教育目標のもと、学位プログラム「博士（人間科学）」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「人間科学」では、1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として人間科学研究科が発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の専門的知識（専門知）や、それらの研究方法を融合させて総合的にとらえる統合知を育成しながら、日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その目的の実現のために、「学際性」、「実践性」、「国際性」の3つの理念を掲げ、高度な専門性に基づいて、各理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

行動学、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のいずれかの学系に所属して、それぞれの学系での最先端の知識の習得による高度な専門知を形成しつつ、専門分野の高度な知識・学識を他の分野の知識と分野横断的に統合させた統合知の習得を目指します。

○高度な教養

文系・理系という従来の専門分野の枠を超えて、人間科学の諸分野の知識や研究手法を学際的に統合するための思考力や展開力を支える高度な教養の育成を目指します。

○高度な国際性

社会のグローバル化の趨勢から、国際的な考え方を持つ多様な人々とリーダーシップを取りながらコミュニケーションできる高度な能力の育成に取り組みます。

○高度なデザイン力

実験・調査・フィールドワークの実践的活動を通じて専門知の技法を洗練化・高度化しつつ、学術・や社会、現場でのさまざまな研究課題における問題発見力やその解決のための構想力の育成を目指します。また、社会や現場でリーダーシップを発揮して、さまざまな人々と協働しながら課題に取り組む展開力やその実践から生まれる共創知を養います。

博士後期課程においては、複雑化し激動するグローバル社会の中でも、高度な専門知を備え、かつ、統合知や共創知を踏まえながら、さまざまな課題に取り組める専門家及び将来研究者を目指す人材を養成します。

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、人間科学研究科では、日本及び国際社会に貢献する能力を養うため、学際性・実践性・国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に博士（人間科学）を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解し、活用できる。
- ・自ら設定した課題についての専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得し、高度な研究ができる。

○高度な教養

- ・現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。

○高度な国際性

- ・日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語での表現力を十分に身につけている。
- ・自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持っている。

○高度なデザイン力

- ・自ら発見・設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどを通じて研究・分析するために必要となる高度で、実践的な研究遂行力を持ち、学術的な成果としてもまとめ上げる表現力を持っている。
- ・さまざまな専門的知識を持つ他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を高度に展開できる。

人間科学研究科の博士後期課程では、これらの能力を有し、かつ適切な研究指導に基づいて博士学位論文を完成させた学生に、高度な専門的知識に加えて、学際的かつ柔軟な視点を持ちつつ、国際的にも活躍可能な専門研究者として学位を認定します。

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる人間と人間が営む社会がかかえる諸問題に科学的にアプローチするために、グローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

○教育課程編成の考え方

学際的・国際的な研究力や課題解決のための実践力を育成するために、「人間科学専攻」の下に設置された4つの学系（行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系）が提供する特別演習・特別研究の履修を通じて、科学的・実験実証的・統計学的なアプローチ、人文科学・文献研究・質的研究・フィールドワークの視座や考え方、そして国際コミュニケーションや国際比較の手法を学修します。そして、適切な研究指導を受けながら、博士学位論文を完成させます。

○学修内容及び学修方法

博士後期課程では博士学位論文の完成を目指して個々の研究課題に取り組むとともに、高度な専門的知識を活用した研究活動を促進するために、そして、研究における高度なデザイン力や研究遂行力を身に付けるために、教員からの個別指導等による特別研究を履修し、研究スキルや研究手法、専攻する学問分野独自の理論や思考法などを身に付け、発展させます。

課題発見やその解決のための研究力や実践力を育成するために、少人数による特別演習科目では、アクティブラーニングや演習形式によって専門性の高い知識・理論や研究手法を学びます。高度な外国語能力や国際的視野を習得するために、特別演習では外国語で書かれた文献の購読・輪読や文献紹介にも取り組みます。また、文献輪読や研究発表を通じて、高度なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を涵養します。

大学院学生にふさわしい高度な教養や幅広い学問領域の素養を涵養するために、高度副プログラムの科目や未来共生リーディング大学院プログラムが開発してきた科目などの共通科目を受けることができます。また、他研究科が提供する高度教養教育科目の履修によって高度な教養を習得することができます。

○学修成果の評価方法

学修の成果は、特別演習において、シラバスに記載されている学習目標の達成度について、課題・実習・フィールドワークへのレポートの成績を基にして評価します。特別研究は、博士学位論文の完成のための研究指導であるため、論文作成上での諸活動での成果を基に評価します。

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

大阪大学及び人間科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

学位プログラム「人間科学」は、「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成することを目的」としています。そのため、文理融合、その具体的側面としての学際性・実践性・国際性という教育プログラムを充実させてきた私たちは、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲や能力、並びに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる学生を強く求めています。

人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。私たちは、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探求する素地を持つ学生を積極的に受け入れることで、総合科学として人間科学を発展させていきたいと考えます。同時に、多彩な職業経験を有し、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。そのためには、下記のような能力を入学以前に修得していることが求められます。

- ・ 専門分野に関する深い知識
- ・ 実験や観察、フィールド調査などを行うためのしっかりとした研究方法
- ・ 調査結果や文献などを適切に分析しまとめる能力
- ・ 研究成果を発表するプレゼンテーションの技術や語学力

【入学者選抜の方針】

それぞれの専門分野における基本的学力はもとより、自分の研究や思考を他者に伝えることができる日本語での表現力、並びに国際コミュニケーション力の土台となる外国語能力を求めます。したがって論文等の審査、成績証明書等を総合して入学者選抜を行います。社会人特別入試では、提出された研究計画書や修士論文・研究論文に基づく口頭試問により選抜します。